

タヒチアンパール現地研修を実施

タヒチパールプロモーション（略称 TPJ 会長：奥田一弥 会員 33 社）は「タヒチアンパールスタディーツアー」を 10 月 28 日から 11 月 2 日までの 6 日間に亘り主催実施した。同ツアーはタヒチアンパールの啓蒙事業の一環として生産地に出向き研修を行うもので 4 回目を迎える今回のツアーは、真珠検定（主催日本真珠振興会）SA 合格者 7 名、日本ジュエリー協会から 3 名の参加を得ておこなわれた。



1 日目：ランギロア真珠養殖場

ツアーはタヒチ島から北東に 350 k m離れた環礁としては世界で二番目に大きいランギロア島でタヒチアンパールの養殖を行っているゴーギャンパールを訪れ研修をスタートした。同社では挿核作業を見学するとともに同社社主より母貝や真珠など玄物から製品まで養殖の 1 から 10、市場情勢までの講義を受けた。





2 日目：RIKITEA 真珠養殖組合オークション視察

2 日目はタヒチ島から南東に 1600 km 離れたガンビエ諸島で生産されたタヒチアンパールの入札会 26th Rikitea cooperative Auction の会場視察から始められた。

同諸島はタヒチアンパールの主な生産地であるツアモツ諸島よりはるか南東に位置し海水温もツアモツ諸島より平均 2~3 度低く良質な真珠が産出されることで定評がある。

オークション会場には 636 ロット 187,002 個の真珠が出品され下見会が行われていた。

会場では主催者であるリキテア真珠養殖組合（Poe O Rikitea 会員 40 社） 代表 Dominique DEVAUX 氏よりオークションの仕組み、流れ、同地の真珠の特徴などが解説されツアーメンバーとの質疑応答が繰り広げられた。入札会の結果は落札の 7 割以上が日本の参加者からで、真珠一個の最高落札額は 18.9mm 珠 8,787 ユーロと 100 万円以上の値段を付けた。



タヒチでは、同時期他の組合や企業の入札会も行われており、実りの時期となっている。そうしたなかツアーは Rikitea Auction に引き続きタヒチアンパール最大の生産事業会社 Robert WAN 社の入札会最終日を迎えた会場でもある Robeert WAN 邸を訪れた。一行は社主 Robert WAN 氏と挨拶を交わした後、邸内の案内、記念撮影などが行われた。

副大統領府訪問

午後はタヒチアンパール産業の政策立案の要といえる Teva Rohfritsch フレンチポリネシア政府副大統領を表敬訪問し面談を行った。

面談は 1880 年フレンチポリネシア議会が最初に行われた由緒ある旧議事堂でおこなわれた。日本側からはタヒチアンパールの市場情勢を説明し、生産抑制、価格安定化等を要請した。副大統領からは、生産国としての産業政策、中長期ビジョンの解説が行われ、タヒチアンパール最大の消費市場である日本と協調し産業育成を図りたいと強調した。

45 分に亘る面談の後、副大統領からツアー参加者個別に署名入り研修証明書が授与された。



タヒチアンパールセミナー

副大統領府訪問の後、場所を移し午後 3 時から 6 時までタヒチアンパールの養殖の理解を深めるためタヒチ在住で永年養殖技術者として同地で活躍している松井・大倉両氏を講師として迎えセミナーを行った。

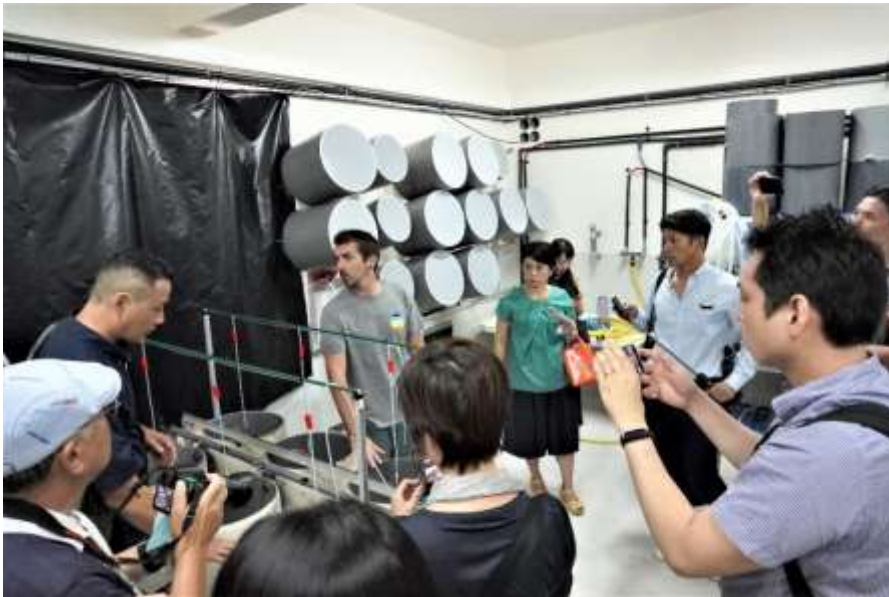
セミナーでは予めツアーメンバーより募った 10 余りの質問について項目別に現地で行われている挿核。養殖作業を中心に環境面に至るまで動画を駆使した詳しい解説が行われた。その後生産者・小売業と真珠専門家同士ならではの中身の濃い質疑応答が 2 時間余りにわたり展開された。

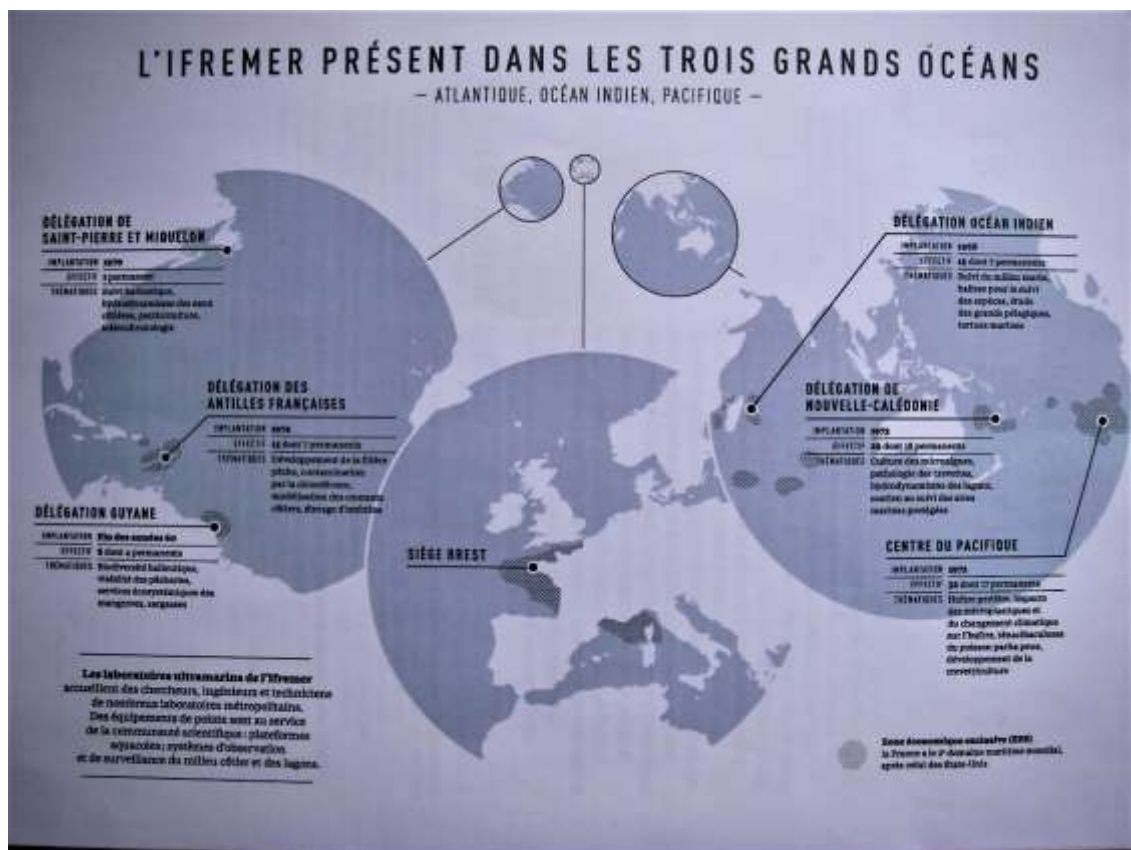


3 日目：IFREMER 仏国国立海洋研究所視察

研修 3 日目はタヒチの首都パペーテ市から 60 km 余離れた仏国国立海洋研究所 IFREMER を訪れタヒチアンパール研究の最前線を見学した。

同所では総勢 40 人が研究に従事しており、真珠養殖に加えエビやマグロ等の魚介類の研究も行われている。真珠養殖部門ではタヒチアンパールの安定的生産、高付加価値化を図る基となる人工採苗の研究が進んでおり、その進捗状況や餌の育成から産卵、幼貝の成長段階によって仕切られた施設を回りながら工程ごとに研究員による詳しい解説、講義を受けた。天然の母貝についてもそれぞれの諸島の特質、貝の性質による真珠の色の違い等が説明された。とりわけ海水温 34℃ の高温域でも棲息できる黒蝶貝と低温域で棲息する黒蝶貝の違い、特質、albinos 種貝を母貝に使用した真珠養殖等が披露され、日本のあこや貝、黒蝶貝との違いを実感するなどタヒチアンパールの多様性がうかがえる視察・講習となった。





IFREMER 所在地図

ツアーは IFREMER で 2 時間余りの視察を終えた後、首都パペーテ市に戻り 11 月 1 日深夜帰国の途についた。成田空港で出口階の巨大スクリーンに映し出されたタヒチアンパールデジタルサイネージを背に 6 日間に亘るタヒチアンパールスタディーツアーを締めくくり解散した。

